



編集兼発行
公益財団法人 小笠原協会
東京都港区海岸1-12-2
竹芝客船ターミナル2階
電話 03-3432-4921
FAX 03-3432-4487
振替貯金口座(郵便)
00190-9-64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

小笠原の航路を

支えて50年

小笠原海運 創立50周年記念

今年9月に小笠原海運は創立50周年を迎える。本号では、小笠原諸島の生活を支えてきた小笠原航路(主として定期船)の歴史を紹介し、また、おがさわら丸を運

航する小笠原海運株式会社は、「創立50周年を記念する一年」として様々な事業を実施する。価格や日程にこだわったスペシャルな旅行プランや、おがさわら丸の船内売店『シヨップドルフィ

ン』では、50周年記念限定アイテムを多数入荷予定。また、有名ブランドとのコラボ商品も登場予定。詳しくは、小笠原海運のホームページ <http://www.ogasawarakaiun.co.jp/50th/> にて公開中です。

1 小笠原航路の歴史

船が主要な交通手段である小笠原航路の歴史は古い。また現在でも、小笠原を領有することで、わが国が広大な排他的経済水域を有しており、この航路は従来から国策上の役割を担っていた。

今日まで143年間、戦前は主として郵便汽船三菱会社、日本郵船、近海郵船が、そして戦後は主として小笠原海運が、この航路を運航してきた。

記録では明治9(1876)年に日本が小笠原諸島を領有した年に、内務省の所管で、郵便汽船三菱会社が太平丸(750総トン)で年3回往復している。

その後、明治32年には、毎月1便(横浜、八丈島、父島、母島片道4泊5日 臨時寄港地・青ヶ島、鳥島、聳島、硫黄島)に増えているが、このころ小笠原諸島の人口も4,000人へと急増していた。

就航船は、明治期には千年丸、青龍丸、駿河丸、住ノ江丸、兵庫丸(1,517総トン)、大正時代には、芝罘丸(「チーファー」後の芝園丸)、嘉代丸などであった。昭和初期には、桐丸(531総トン 東京・八丈

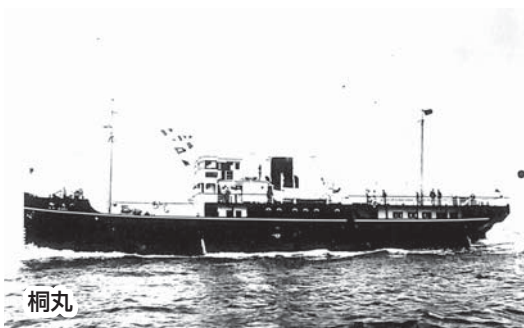
島・父島・母島航路)、筑前丸(2,578総トン)が活躍した。昭和13年には、再び



兵庫丸



芝園丸



桐丸

芝園丸が復帰している。

2 戦況の悪化による中止と返還後の復活

凍の海産物が送られていた。返還後は、東京都が昭和43年の返還当初から昭和47年



USS BANNER/AKL25



飛行艇 (アメリカ海軍)

昭和17(1942)年、太平洋戦争の戦況悪化とともに、航路の安全が失われ物資の輸送が難しくなった。芝園丸による南洋航路は中止され、その後、小笠原返還まで定期航路は復活していない。

アメリカの占領下では、日本領とは生活圏が異なり、グアムやサイパンとの往来が主で飛行艇と貨物船(USS BANNER AKL25)によって支えられた。父島からは、冷



椿丸

まで東海汽船と契約して航路を復活させた。最初は黒潮丸(489総トン)で月1〜2回の往復、翌年の4年には、椿丸(1,016総トン、航海時間44時間)が就航



父島丸

その後、小笠原海運株式会社は、返還1年後の昭和44年9月10日に設立され、昭和47年に運輸省の事業免許を取得、太平洋戦争以降初の民間による小笠原航路が復活した。(小笠原海運(株)は、近海郵船と東海汽船の共同出資による新会社)

小笠原海運は、昭和47年当初、椿丸での運航を継承したが、椿丸は小型で老朽化が著しく、長期運用に耐えられなかった。そのため小笠原海運は、翌48年に、父島丸(2,616総トン、旅客定員622人、航海時間38時間、沖縄航路客船「浮島



初代 おがさわら丸

3 初代「おがさわら丸」の就航

父島丸は、昭和48年から昭和54年3月まで活躍したが、交代時には船齢19年に達していた。

初代「おがさわら丸」(東海汽船の「すれちあ丸」を流用)は、昭和54年4月2日に第一便を飾ったが、3,553総トン、旅客定員1,041人、航海時間は28時間と、父島丸の輸送能力をはる

かに凌いだ。次いで、初代から18年後の第2代「おがさわら丸」(平成9年3月1日就航、6,700総トン、旅客定員1,031人、航海時間25時間半)は大型化した。旅客定員を抑え、客室居住性を向上させ、かつ運航時間の短縮を図った。

さらに、第2代から19年後の平成28年就航、現在の第3代「おがさわら丸」(11,000総トン、旅客定員894人、航海時間24時間)は、大幅に大型化した。逆に旅客定員を減らし、個室を増やすなど居住性を格段に向上させている。



第2 弥栄丸

4 父島と母島間の就航
さて、父島から母島へは、さらに南に50km。現在のははじま丸で2時間かかる。以前は、南洋航路で、そのまま東京から父島、母島への寄港だったが、鳥島や硫黄島に行かなくなった返還後は、父島と母島を結ぶ便に変わっている。返還後に父島と母島間を



2代目 おがさわら丸

結ぶ最初の船は、昭和46年就航の「おがさわら丸」(同名別船の小型船舶)だった。その後、昭和48年に、「若潮丸」、昭和51年から、伊豆諸島開発(株)の「第2弥栄丸」が就航し、昭和54年から、初代の「ははじま丸」(302総トン)に引き継がれた。初代の「ははじま丸」は、平成3年に新船(2代目)「ははじま丸」490総トンに名前とともに引き継がれ、現在では、平成28年就航の3代目「ははじま丸」(453総トン)が就航している。



3代目 ははじま丸



2代目 ははじま丸



初代 ははじま丸

ご挨拶

小笠原海運は2019年をもって創立50周年を迎えます。この50年の間にご乗船いただいたすべてのみなさま、本当にありがとうございました。2019年は私たちにしかできない形で、みなさまへ感謝の気持ちをお伝えします。スペシャルな1年になりますよ！小笠原にいつか行きたいと思っている方、何十年も昔、若かりし頃に行った記憶があるという方、毎年必ず来てくださっているハードリピーターのみなさま、そして何より、常日頃ご利用いただいている小笠原島民のみなさま、どなたさまも2019年、ぜひおがさわら丸にご乗船くださいませ。

社員一同、みなさまのご乗船を心よりお待ちしております。

小笠原海運株式会社

5 貨物船の歴史

小笠原諸島にとって、物流の基盤は、定期貨客船だけでなく、貨物船が重要な役割を担ってきた。返還後の歴史では、直後の昭和43年に「第12共勝丸」が、東海汽船の用船として登場した。その後、昭和46年に株式会社「共勝丸」は、事業許可を取得し、独自に貨物営業を開始、就航船は第21、第20共勝丸の初代、第2代と繋がれ、平成5年には、最近まで就航していた第28共勝丸が活躍してきた。そして、本年1月に新船「共勝丸」が就航した。工事機材や危険物など、旅客船では運べないものの輸送にはなくてはならない存在である。



共勝丸



第28 共勝丸

小笠原諸島文化講演会

「国策に翻弄された硫黄島の130年」

中公新書「硫黄島」刊行を機に

主催 公益財団法人小笠原協会
共催 明治学院大学国際平和研究所

日時 2019年5月17日(金)

18:00～19:30

(17:30受付開始)

会場 明治学院大学白金校舎

本館10階大会議場

講師 石原 俊氏

(明治学院大学社会学部教授/国際平和研究所所員)



公益財団法人小笠原協会では、強制疎開から返還に至る小笠原諸島の歴史を発掘し検証するとともに、残された課題を明らかにする活動をすすめています。これにより、同諸島の文化的、地理的、歴史的な特異性への理解を深め、これからの国境離島のあり方や、歴史の教訓として平和及び地域文化の重要性に光をあて、社会に貢献することを目指しています。

■講師紹介

石原 俊氏(歴史社会学)

石原俊氏は、約20年にわたって小笠原群島・硫黄列島の近現代史研究に従事しており、著書に『近代日本と小笠原諸島―移動民の島々と帝国』(平凡社、2007年)、「群島」の歴史社会学―小笠原諸島・硫黄島、日本・アメリカ、そして太平洋世界(弘文堂、2013年)などがあり

ます。この1月に、『硫黄島―国策に翻弄された130年』(中公新書)を刊行されました。

小笠原ファンを作ろう！
賛助会にご加入のお願い！

講演要旨

日米の地上戦の場として知られる硫黄列島(北硫黄島・硫黄島など)は、実は近現代日本の矛盾が集中的に表れている場所である。19世紀末以来、日本の「南洋」進出を背景に入植地として発展していたが、1944年の強制疎開で大多数の島民が故郷を失った。残留を命じられ地上戦で命を落とした島民も少なくない。その後、硫黄島は米軍と自衛隊によって排他的に利用され、施政権返還から半世紀経っても島民の帰郷は認められていない。困難な現状のなかで、故郷を奪われてきた島民の気持ちに寄り添いながら、われわれはどのような途を模索すべきか、考える契機として。

■お申込み先・お問合せ先

公益財団法人小笠原協会

TEL03-3432-4921

fax03-3432-4487

メール kzhoo@ogasawarak.jp

入場無料(事前申込み制)...

一般公募は先着60名締切り。

入場券を郵送します。

〈お申込み〉

ファックス又はメールで

お願いします。

〈お申込み期間〉

2019年4月15日(月)

5月10日(金)

明治学院大学の構成員(教

職員・非常勤講師・研究員・

院生・学生等)の方は事前

申込み不要です。

〈当日の連絡先〉

明治学院大学国際平和研究

所(PRIME)

TEL03-5421-5652

fax03-5421-5653

メール prime@prime.meijaku.ac.jp



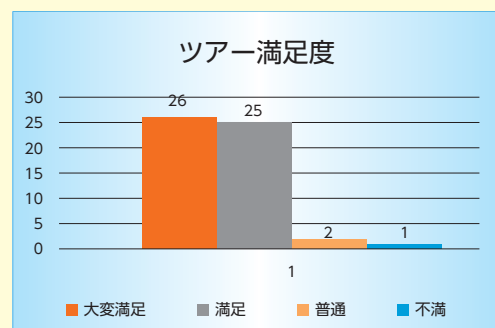
平成30年度 第19回小笠原訪問・交流ツアーアンケート結果

平成30年10月31日(火)～11月5日(日) 参加人数 133人
旧島民12人、賛助会員29人、一般92人、協会スタッフ4人
アンケート回収 55人 回収率 41.4%

第19回目の小笠原協会企画、小笠原海運実施の「小笠原訪問・交流ツアー」は、昨年10月31日(火)～11月5日(日)にわたり133人の参加で、小笠原村はじめ島の皆様のご支援、ご協力のもと大成功のツアーとなりました。お迎えをいただいた父島、母島の皆様に心から感謝申し上げます。

1 ツアー満足度

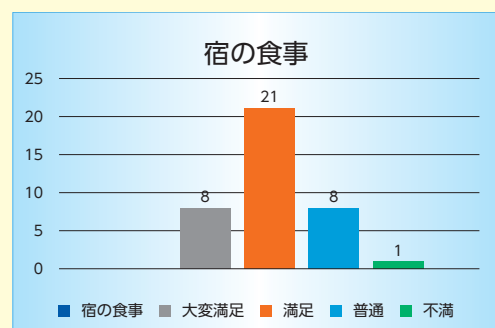
例年どおり、圧倒的に大満足と満足が多く、「なかなか行けなかった父島、母島に行くことができ、現地でも話を色々聞くことができた」、「交流会も楽しく、小笠原の歴史にふれることができ、ダイビングも満喫した。島民の方とふれあいの場がある」「父島交流会で南洋踊りや太鼓を見て感動し、料理もおいしくいただきました」、「新しくなった船は初めてですが、さすがにどこもキレイで心地良いです」、「父島の豊かな自然 海の青さに感動、自然のすばらしさ 本州では見られない植生、海岸風景の眺めがすばらしい 初めて見る事ばかりで感動のしっぱなし すべてが初めてだったけど、やさしくしていただいた。島民のみなさんがとても良い人達ばかりだった」など小笠原の自然への感動、交流会、マリンスポーツの体験、島の皆様のお迎えやおがさわら丸の快適さに感動されていました。ただ、「今回から延泊が無くなったことや、料金が年々上がっていることについては残念」との声もあった。



亀煮

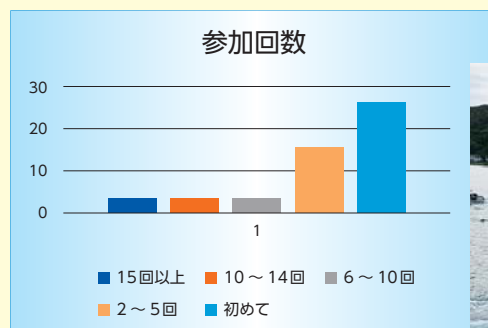
3 宿の食事

満足と大変満足で過半数を占めており、「小笠原ならではの料理が出された」、「今回は朝食のみのコースでしたが、和食、洋食と変化があり、五穀米やバター・ジャムなどこだわった美味しい食事でした」、「ガイドさんに聞いた食事処に何軒か行きましたがとてもおいしかった」など、宿の食事だけでなく、外食の評価も高かった。一方で、「島のものを毎食食べたかった」、「出来るだけ島らしい食事が欲しかった」、「宿では夕食がなかった。宿の食事が楽しかったので残念」などの声もあった。



2 参加回数・次回の意向

本ツアーは、半数以上は初参加だが、リピーターが多いのも特色である。

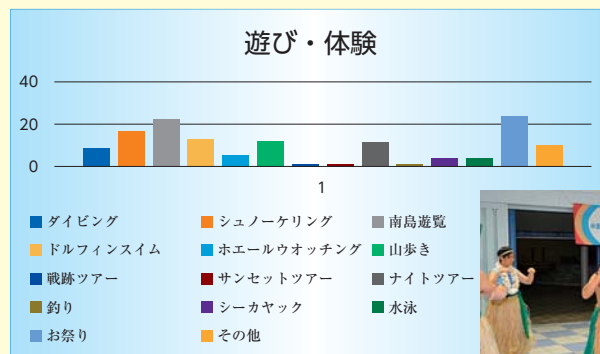


父島のお見送り

4 お土産

「小笠原独特の塩、はちみつ、島レモン等こちらでしか手に入らないものがあり良かった」、「島の特産を使っているもの多くて良かった」、「以前から比べると品数が増えた、種類も豊富で店も複数あったので欲しかったものはおおよそ買えた」という満足の声の一方で、「手作りの小物などもっと新しい商品があるといい」、「特産物を開発してほしい」「会社に持っていきやすいお菓子があまりなかった」などの声もあった。

また、「小さな島で仕方ないことですが、地場で育ったものももっとあれば良い」、「ゆずこしょうなどはおいしいけど、ビンが重たい、量が少ない」、「オリジナルな物が多く、手作り感が良かったが、品切れが残念」、「フルーツ、はちみつ、やや品不足はしょうがないです」などの事情を理解しながらの要望もあった。



南洋踊り

5 その他 (交流会・イベント等)

「神社のお祭りは高い場所ではなく平地で行われるものもほしい (高齢者のため)」、「ジョギングしながら名所をまわる」、「ヤギ退治、グリーンアノール狩りなど」、「ダイビング 流れの少ない場所でのシュノーケリング、前日申し込み、締め切り時間を延ばして欲しい」、「あまり行けないような所の清掃ボランティアに参加できるとうれしい。母島でいえば平島など」、「母島は島内一周道路がないので代わりに船で島内一周ツアーがあればうれしい」、「地元の方々とふれ合いの機会が多くなるようなイベント」、「釣り場所を整備してほしい」、「バスで島内の案内をしてもらえると嬉しい」、「交流会での帰りのバス」など、難しいご要望もありました。

2019年 今年も小笠原訪問・交流ツアーを開催します

小笠原訪問・交流ツアーは、20年前に、旧島民の里帰りの機会をと企画し、今年で記念すべき20回目になります。今年も、小笠原村及び観光協会等の皆さまにご支援を頂き小笠原訪問・交流ツアーを実施します。

期間は昨年同様、父島のお祭りが行われる10月31日(木) 竹芝発～11月5日(火) 竹芝着を予定しています。

昨年も小笠原の自然や、島の皆様からの熱烈的な歓迎に驚き感動し、村祭りを楽しませていただきました。また、父島と母島の交流会では島寿司、亀の煮込みなど心のこもった料理を頂きながら南洋踊りや小笠原太鼓、スティールパンの演奏を堪能しました。準備をして下さった皆様、ご出演くださった皆様、食材をご提供くださった皆様大変ありがとうございました。今年の企画詳細は次号7月1日号に掲載しますので、宜しくお願いします。



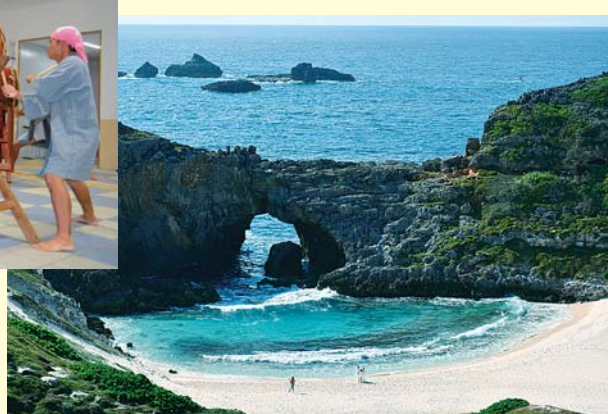
母島交流会



(母島)



小笠原太鼓 (父島)



南島

平成31年3月1日現在 ()内は前年同月	平成31年2月気象状況 ()内は前年同月 (父島)
住民基本台帳登録者数	最高気温 24.9℃ (23.6℃)
○世帯 1,497世帯 (1,503世帯)	最低気温 13.1℃ (11.6℃)
父島 1,216世帯 (1,227世帯)	平均気温 19.8℃ (18.1℃)
母島 281世帯 (276世帯)	平均湿度 72% (71%)
○人口 2,626人 (2,647人)	月降水量 24.0mm (49.5mm)
父島 2,155人 (2,165人)	(気象庁 ホームページ)
母島 471人 (482人)	平成31年2月中の来島者数 ()内は前年同月 (父島)
	定期船 2,683人 (2,477人)
	観光船 0人 (0人)

- ③ 小笠原ことばの研究とコミュニケーションへの還元
ロンドン
- ② 小笠原の気候・水文研究
とコミュニケーションへの還元
松山洋 (首都大学東京・都市環境学部)
- ① 23年間の小笠原研究を振り返る
可知直毅 (首都大学東京・理学部)



- ⑥ 小笠原諸島の古地図・古写真を読む
延島冬生 (小笠原村在住・元小笠原村職員)
- ⑤ 日米関係史における小笠原の特殊性と普遍性
真崎翔 (名古屋大学・国際開発研究科)
- ④ 南洋から伝わった小笠原の音楽の系譜
小西潤子 (沖縄県立芸術大学・音楽学部)

日本島嶼学会主催
小笠原ミニシンポジウム開催

日本島嶼学会は (首都大学東京小笠原研究委員会共催) 3月7日 (木) に父島で公開ミニシンポジウムを開催した。(会場：小笠原村地域福祉センター)

- ▼個人特別賛助会費
▽五口 鍋島 茂樹
▽三口 青野 春樹
▽一口 三枝 佳紀
荒牧 大我
荒牧 勝幸
吉田美恵子
橋本あゆみ
手塚 年章
中島 邦夫
浅野 堅一
七井 正敏
- ▼新規入会者
▽一口 中島 勇造
下野 雄太
入澤 俊雄
内田 千晶
八川真由美
中西 宏
藤里美南子
澤木 淑人
澤木 順子
鶴岡 恵美
小島 拓也
長尾 樹
山田 孝行
高橋由紀
中島 裕丈
生方 幸佑
井崎 泰佑
山口 敬大
馬場 忠信
廣瀬 学
廣瀬 由香
菅野 愛美
東海林 昂
二宮 好江
榎原 玉恵
尾崎 大地
中村 咲子
小堀 舞
小山 麗子
阿部 秀樹
稲葉 陽一
稲葉 和美
飯沼 恵子
井原 大地
石橋 寛子
伊藤 誠
山本 佳美
佐々木美加
奥山 芳徳
奥山恵理子
柴田沙矢歌
佐藤 光俊
石田麻由子
- ▼法人特別賛助会費
▽五口 (三万円) 株式会社 トマック
▽二口 (一万二千円) 小笠原海運株式会社
▽寄付金
▽平成31年新年号広告
(三万円) 株式会社 トマック
日章建設株式会社
鹿島建設株式会社
(二社) 硫黄島婦促進協議会
五洋建設株式会社 小笠原海運株式会社
司法書士 玉井事務所
株式会社東京エイドセンター

その後、「小笠原研究者に期待されること」として各演者及び島内関係者による討論があった。

皆様
ありがとう
ございました
～平成31年2月28日まで

謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。
山本 博美様 81歳
平成30年11月23日ご逝去
硫黄島出身
若澤 祝子様 80歳
平成30年3月4日ご逝去
母島出身

梅原英男さんを悼む
小笠原協会元事務局長 佐藤 茂美
昨年暮れ、新潟の友人から「梅原英男氏が亡くなった。」という知らせを聞いて愕然とした。殺しても死なない男に見えた。それ程、頑強な男だった。彼に對しては、我々の仲間では公務員らしからぬ公務員で、新規採用時から退職まで自分の思い通りに生きてきた男と見ていた。身体が大きくいかつい風貌は初対面の人には身構えられていたに違いない。競馬やマージャンなど賭け事が好きで、それがまためっぽう強いのである。くじ運も強く、宝くじや、競争率が何十倍にも人気があった。職場でのくじ引きなどでも何時もいい思ひをしていた。彼には我々には見えない、見えざる何かが見える能力があったのかもしれない。仕事に對する取り組みは、几帳面でもう少し手を抜いてもいいのではないかと思う程であった。小笠原村の総務課長、小笠原協会事務局長としてきちんとした取り組みをされていた。裏表のない気風の良さとさっぱりとした性格は、多くの仲間を呼んだ。だが、日頃の態度や言葉遣いが荒かったせい、で、かなり誤解をされている面もあったが、本当は、心の優しい、涙脆いところのある男であった。清掃事務所の勤務では、運転手や現業職の方々がらは彼の性格が合っていたらしく、多くの人達に慕われていた。退職後は、新潟に家を建て、浅草の住まいを行ったり来たり、の生活を行って、雪の多い新潟で難儀をされていることを話されていた。今は、只々、御冥福を祈るばかりです。
30年11月18日ご逝去
享年76歳
元小笠原協会事務局長
元小笠原村商工会事務局長
元小笠原村総務課長

小笠原航路時刻表
(平成31年4月～令和元年9月)

ハートロック (千尋岩)

運航月時刻	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
4月	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	3泊
	3(木)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	
	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	
	※1 15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	
	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	
	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	
5月	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	父島泊数
	27(土)	28(日)	—	—	28(日)	29(月)	
	1(木)	2(木)	—	—	2(木)	3(金)	
	4(土)	5(日)	—	—	5(日)	6(月)	
	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
6月	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(月)	14(火)	※2 4泊
	※3 17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	
	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	
	31(金)	6/1(土)	6/2(日)	6/3(月)	6/4(火)	6/5(水)	
	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	
	※4 14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	
7月	20(木)	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	3泊
	26(木)	27(金)	28(土)	29(日)	30(月)	7/1(火)	
	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	
	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	
	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	
	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	
8月	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	父島泊数
	20(土)	21(日)	—	—	21(日)	22(月)	
	23(火)	24(水)	—	—	24(水)	25(木)	
	26(金)	27(土)	—	—	27(土)	28(日)	
	30(火)	31(水)	—	—	31(水)	8/1(木)	
	2(金)	3(土)	—	—	3(土)	4(日)	
9月	6(火)	7(水)	—	—	7(水)	8(木)	父島泊数
	9(金)	10(土)	—	—	10(土)	11(日)	
	13(火)	14(水)	—	—	14(水)	15(木)	
	16(金)	17(土)	—	—	17(土)	18(日)	
	20(火)	21(水)	—	—	21(水)	22(木)	
	23(金)	24(土)	—	—	24(土)	25(日)	
10月	東京発	父島着・泊	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	31(土)	
	1(日)	2(月)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	
	7(土)	8(日)	9(月)	10(火)	11(水)	12(木)	
	13(金)	14(土)	15(日)	16(月)	17(火)	18(水)	
11月	19(木)	20(金)	21(土)	22(日)	23(月)	24(火)	3泊
	25(木)	26(金)	27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	

さあ！母島へ行こう
母島への航路 (ホエールライン)

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21km²です。島の中央に乳房山 (463m) があり島の周囲は58kmあります。母島を観光される方は、下記の時刻表でぜひ訪島してください。

(平成31年4月～令和元年9月)

運航月時刻	おがさわら丸 父島入港日	おがさわら丸 父島入港の翌日	おがさわら丸 父島出港日	おがさわら丸 父島入出港日	その他の日	運休日				
運航時刻	父島出港 12:00		7:30	7:30 13:30	7:30					
	母島入港 14:00		9:30	9:30 15:30	9:30					
	母島出港	14:00	12:00	10:30 16:00	14:00					
	父島入港	16:00	14:00	12:30 18:00	16:00					
運行月日	4月	4(木) 10(水) 16(火) 22(月)	5(金) 11(木) 17(水) 23(火)	1(月) 7(日) 13(土) 19(金) 25(木)	4/28・5/5・7/21・27・8/3・10・17・24は上記の時刻で運行	3(火) 9(火) 15(月) 21(日) 27(土) 30(金)	6(土) 12(金) 18(木) 24(水)	2(火) 8(月) 14(日) 20(土) 26(金) 29(月)		
	5月	10(金) 25(土)	11(土) 19(日) 26(日)	14(火) 21(火) 28(火)	父島出港 7:30 母島入港 9:30 母島出港 10:00 父島入港 12:00 父島出港 14:00	1(火) 8(火) 13(月) 20(月) 27(月)	4(土) 9(木) 16(木) 23(木) 30(木)	7(火) 12(日) 17(金) 24(金) 31(金)	6(月) 15(火) 22(火) 29(火)	
	6月	1(土) 8(土) 15(土) 21(金) 27(木)	2(日) 9(日) 16(日) 22(土) 28(金)	4(火) 11(火) 18(火) 24(月) 30(日)	母島入港 16:00 5/2・7/24・31・8/7・14・21は上記の時刻で運行	3(月) 10(月) 17(月) 23(日) 29(土)	6(木) 13(木) 20(木) 26(水) 31(土)	7(金) 14(金) 21(金) 28(金)	5(火) 12(火) 19(火) 25(火)	
	7月	3(木) 9(火) 15(月)	4(木) 10(木) 16(火)	6(土) 12(金) 18(木)	父島入港 17:00 5/3・7/25・8/1・8/15・22は上記の時刻で運行	2(火) 8(月) 14(日) 20(土) 26(金)	5(金) 11(木) 17(水) 23(木) 30(火)	1(月) 7(日) 13(土) 19(金) 22(日)		
	8月				父島出港 14:00 母島入港 16:00 5/18は上記の時刻で運行	2(土) 9(金) 16(金) 23(土) 29(木)	5(月) 12(月) 19(月) 26(月)	6(火) 13(火) 20(火)	4(日) 11(日) 18(日) 25(日) 31(土)	
	9月	27(火) 2(月) 8(日) 14(土) 20(金) 26(木)	28(水) 3(火) 9(月) 15(土) 21(土) 27(金)	30(金) 5(木) 11(水) 17(火) 23(月) 29(日)		1(日) 10(火) 16(月) 22(日) 28(土)	4(火) 13(火) 19(火) 25(火)	7(土) 14(土) 21(土) 28(土)	6(金) 13(金) 18(金) 24(金) 30(月)	

お問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎ 03-3451-5171

お問い合わせ先 伊豆諸島開発株式会社 ☎ 03-3455-3090

帰ろう心の故郷へ！ 行こう念願の島へ！！